

5 万分の 1 地質図幅の 新刊

象 潟 KISAKATA

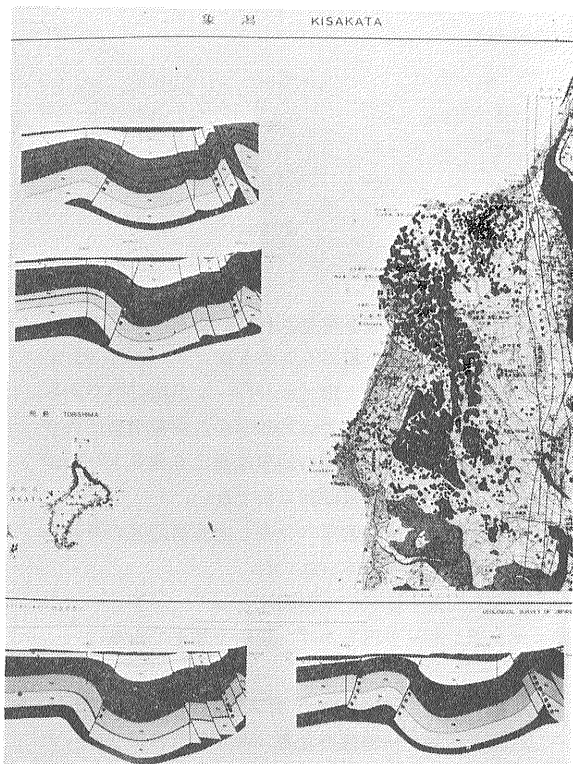
5 万分の 1 地質図幅
地域地質研究報告

著 者 大沢 稔 ・ 池辺 穰
 荒川洋一 ・ 土谷信之
 佐藤博之 ・ 垣見俊弘

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店

販売価格 2,390円



○象潟図幅地域は 秋田県南部の日本海沿岸に位置し 鳥海山 (2,230m) の広い裾野の北西部を占めている。本図幅地域には 象潟西方 30km の日本海上に浮かぶ山形県の飛島を含めている。

○象潟図幅地域内の景勝地「象潟」は 古来より名高く 1804 年 (文化元年) 象潟地震で一夜にして隆起し消滅したことが良く知られている。

○象潟図幅地域は 東北地方緑色凝灰岩地域に属し 本図幅地域の地質は 緑色凝灰岩地域特有の新第三系及びこれを被覆する鳥海火山噴出物・象潟泥流堆積物などからなる第四系から構成されている。

○石油資源開発株式会社の池辺穰博士及び帝国石油株式会社の荒川洋一博士の協力を頂き 多数の試掘井データを無し 地下深部約3,500mまでを表現した地質断面図をのせている。

○図でわかるように褶曲構造を示し 本図幅地域の主な褶曲は 西から東に向かって象潟背斜群・白雪川向斜及び仁賀保背斜群がある。これら褶曲は 地表若しくは地下浅部で緩傾斜 地下深部で急傾斜を示す特徴がある。

○象潟図幅地域には 油田褶曲方向 (N-S 性) を示す断層が多数認められ 東象潟逆断層・小滝逆断層及び仁賀保衝上断層群がある。これら断層の形成は天徳寺層堆積時初期に始まって 鮎川期 (更新世前期) まで確かに活動している。

少なくとも一部の断層は 更新世後期まで動いた可能性が推定される。

○象潟泥流堆積物は 約 3,000 年前に鳥海山の爆発により発生し 本図幅地域へ流出している。そのため もとの海岸線が 3 km 以上も海側へ突出している。この流出によって 象潟町小滝東方と象潟付近に小さい湖ができ ここに厚さ数 m 内外の小滝層及び象潟層を堆積した。

○本報告書では 第四紀地殻変動と地震について詳述されている。特に象潟地震に関する貴重な記録がのせられている。

地質ニュース

昭和57年11月1日

編 集
 発 行 人
 発 行 所
 印 刷

総発売元

第 339 号 11 月 号
 定 価 ￥ 540 千 実 費
 発 行
 工業技術院 地質調査所
 林 久 雄
 株式会社 実業公報社
 東京千代田区九段南4の2の12
 Tel. (03) 265-0951 (代表)
 振替口座 東京1-32466
 株式会社 実業公報社
 出版事業部